

2020/1/27

(義務教育の小中学校を、鼻から全部 international school にしちゃったらどうなんでしょう)

どうせ、のことなら、いっそ、義務教育の小中学校を、鼻から全部 international school にしちゃったらどうなんでしょうね。

例えば、自分の地元でいえば小中一貫「川崎市立 王禅寺中央 international school」とか「横浜市立 すずき野 international school」とかとか。

そして惜しむらくは都市部より地方から先に。

(市役所並びに市教育委員会の皆さま、勝手に改名、ごめんなさい。それから、住民自らが言うのもなんですが、上記2校は、市の名前に反して結構、環境、雰囲気「地方っぽい」です)

いずれにせよ、これからは、どの国からによらず、在日外国人は増えていくわけだし、幸いというか、その辺はいい加減というか、我が国は、宗教や政治、信条による縛りもあまりありませんし。

下手に、子供時代からの英語教育だの、国際感覚を身に着けるだの、御大層でありながら、その実、親の財産の有無に任せて、格差しか生み出さない今の選別教育などすっぽかして、義務教育という万人平等の公的制度を使って、言語以前のボディランゲージみたいなもので、もっと具体的に言えば、敢えて英語の授業とか日本語の授業とか設けずに、日常生活の会話の中から、肌感覚によって、お互いを小さいころから打ち解けさせる目的で。

そうすれば、英語を教えることになったらどうしようと「奈落の底に落ち込んでいる先生」も、競争に負けては大変とばかりに相手を出し抜くために、子供の幼少期からわざわざ英語塾に通わせる「教育費負担地獄の親御さん」も、そして何より、そんなものの実験台(もっと具体的に言えばリトマス試験紙代わり)にされて「はた迷惑極まりないお子さん」も三方両得で、助かるのではないのでしょうかね。

それが自分の肌感覚では、国際間、世代間交流の第一歩として「正解」のような気がしているんですが、皆さんの目から見て、どうなんでしょうね？